

できる・できる・できる

申 校訓：「自主・友愛・飛躍」

令和5年12月4日
No.48 (第176号)
長崎市立戸町中学校

文責 校長 大橋 功

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/tomachi-j/>

生徒会役員選挙結果発表！

先週30日(木)に、生徒会役員選挙立会演説会並びに投票が実施されました。今回の投票は、長崎市選挙管理事務所から投票箱等をお借りして、本格的な形での投票を行いました。まずは、生徒会役員を紹介します。



会長	2年	森下 凜果 さん
副会長	2年	田尻 紗彩 さん
副会長	1年	祖生部 小雪 さん



どの立候補者も「笑顔」、「楽しい」、「仲良し」等をキーワードに、戸町中学校を今以上に良くしたいという熱のこもった演説が繰り広げられました。また、具体的には、あ

いさつ運動の活性化、意見箱、学校レクによる交流等、生徒間の絆を深める取り組みがありました。

生徒会の活躍が楽しみです。みなさん、3名の生徒会役員をどうぞよろしくお願い致します。



また、選挙管理委員のみなさんもお疲れさまでした。

心の種

今回のテーマは「その一言が言える君は素晴らしい。」

「おはよう」や「こんにちは」とは違い、「ごめんなさい」の一言が素直に出てこない。そんな経験は誰しもあるものです。先日、ある友達同士のいざこざで指導を受けました。その後、お互いに「ごめんなさい」が言えたそうです。その状況を察するに、誠意のある1秒の言葉が素直に言えたという行為こそが素晴らしいと私は思います。これは、親子や兄弟姉妹喧嘩、不注意による失敗等、様々な場面でも同じようなことが言えます。意地をはらずに「ごめんなさい」が言えた時、偏見や差別、いじめ、争い等の根絶に向けた第一歩に繋がるのではないのでしょうか。(〇)

「税についての作文」会長賞受賞！

全国納税貯蓄組合連合会主催「中学生 税についての作文」が実施されました。全国応募総数445,945編。参加中学校数6,457校。内長崎税務署管内納税貯蓄組合連合会管内の応募総数2,252編。参加中学校数39校の中から、**3年 村木 明香里さん**が「長崎税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞」を受賞しました。村木さんの喜びの声(文)と併せて、みなさまにご紹介します。(〇)

この賞をいただいた事に、驚きとうれしさがあります。私は夏休みに税金についての作文を書く事になって初めて「社会保障関係費」について知りました。「社会保障関係費」を含む税金は、私たち国民が安心して暮らせるように使われている事が分かったので、税金を通して助けられている事にこれからも感謝して、自分が大人になってもこの事を忘れないようにしていきたいです。

なお、本校からは79名が応募し、後日、村木さんの賞状をはじめ参加者全員に参加賞が贈呈されます。

明るい笑顔を絶やさないまちを目指して

今年で12年目を迎える戸町みらいまちづくり協議会主催の「とまちミルネ」。2日(土)に多くの地域の方々が訪れる中、点灯式が盛大に行われました。



自他の命を大切に作る心の育成

先週29日(水)に、看護師・思春期保健相談士・日本思春期学会性教育認定講師の中山 安彩美先生をお招きして、1年生の道徳「生命の尊重」を実施しました。



今回の道徳(学習会)は、長崎市男女共同参画センターのご協力のもとに行われ、併せて、佐藤育友会長さんをはじめ学校保健委員会の方々にも参加していただきました。(12月1日発行の「学校保健委員会だより」もご参照ください。)

さて、お話ししていただいた主な内容ですが、一つ目の「思春期ってどんな時期？」では、「保護者からの自立の過程」、「家族より友達と繋がりたい」、「他者を好きになる。」、「恋愛に興味が出る。」、「プライベートパーツ」等、恋の予感やLGBT、SOGIを例にあげながら伝えていただきました。



二つ目の「二次性徴をおさらいしよう」では、「月経と射精」についてイラストを使って学びました。また、“お付き合いって何をするの?”という話をもとに、自他を大切にする行為や気持ち、マナーの大切さについて学びました。

三つ目の「インターネットとうまく付き合えていますか？」では、メリットとデメリット。誤った情報にダマされないこと。実施に相手を見て初めてコミュニケーションと言えること。安易に、自分の写真を送ったり、他者に対して写真等を求めないことを学びました。



性被害に会いそうになった時は、「No(いや)、Go(たすけて)、Tell(信頼する大人に相談)する。

決して一人で不安にならないようにとアドバイスを頂きました。

中山先生の巧みな話術で、生徒はもとより保護者の方々も、性についての話の神髄に迫れたこと。

そして、何よりも「性に関する学び」を思春期真っ只中の男子と女子と一緒に学べたこと。さらには、大人(学校保健委員会・教師)も子供たちと共に学び、改めて、親の立場からも性教育の大切さを再確認できたことが最大の収穫であったように思います。

「性についての学習会」生徒と保護者の感想

私は、今日のお話を聞いて、LGBTやSOGIなど、誰がどんな人を好きになっても、それはその人の自由だし、それを分かり合うことが大切だと思いました。そして、プライベートパーツを守るための4つの約束を守り、自分の体を守っていくことが大切だと分かりました。(生徒)

人によっていろいろなものへの感じ方や考え方が違うことが分かりました。これからは、人が言った意見など、反対意見だったとしても、強く口出しせずに、相手の意見を尊重した上で反対意見を言っていきたいです。(生徒)

将来、誰かと付き合う時が来るかもしれないから、その時は、今日習ったことをしっかり覚えて生かしていけたらいいと思いました。また、SNSの利用についても、気をつけておかないといけないと分かりました。(生徒)

自分が見られたり、触られたりして嫌なところはプライベートゾーンということが分かりました。日本は男女平等については140位中120位くらいで、政治などで大きな差がでると分かりました。心に残ったことは、相手から同意をもらってからしないと犯罪になるということです。急にされたら相手が嫌な気持ちになるから絶対にしません。(生徒)

子ども達がリラックスできるような雰囲気をつくって下さり、とても聞きやすかったです。プライベートパーツや男女のお付き合いについて、生殖器など、たとえ話も交えながら、楽しく分かりやすい中にも、注意すべき点や危険に巻き込まれない方法も知ることができて良かったです。(保護者)

思春期とは“実体のないものをイメージする力を習得“する時期であることを、分かりやすく具体例をあげて、子供たちにイメージしやすいような内容ではじまり、“恋する自分を好きになってほしい。認めてほしい。”という言葉は心に残りました。(保護者)

プライベートパーツについて詳しく説明があったので聞いて良かったです。自分自身もプライベートパーツのことはあいまい?よく考えずに過ごしていました。大人として親として、子供たちに話したいと思います。性のことは、親子でも話すことが少ないと思いますので、恋愛から、男女の成長、体のしくみ、性のことを分かりやすくお話ししてくれる機会があるのはいいと思いました。(保護者)